

平成 23 年度徳島県教育行政点検・評価委員会報告

- 1 開催日時 平成 23 年 8 月 18 日 (木) 10:00~11:30
- 2 場 所 県庁 9 階 教育委員室
- 3 出席者
 【委員】 5 名中 5 名出席
 粟飯原一平委員、桑原恵委員、坂田千代子委員、中村昌宏委員、美馬育子委員
 【県】 福家教育長、原内副教育長、真鍋教育次長、高橋教育次長ほか
- 4 教育委員会の点検・評価 (案) について
 委員からいただいた意見等の概要については次のとおりです。

(1) 全般的なご意見

- 徳島県教育振興計画の基本目標である「郷土に誇りを持ち、社会の一員として自立した、たくましい人づくり」に立ち返り、教育県徳島としての名を高めるためには何が必要なのかということを考えていただきたい。一般的には一流大学への進学者数とか学力テストの県別順位とか言われているが、そういったことだけではなく、本当に真の教育先進県であるというのを何かで見せていきたいと感じるが、そのためには、この点検評価と教育振興計画が一つの柱となってくると思う。
- グローバルという言葉があるが、ローカルで郷土に誇りを持って、そして郷土のことを学び、郷土を愛する人材であるが、しかしながら世界で羽ばたけるような人材を育成していくことが非常に大切であると感じる。

(2) 各事業ごとにいただいたご意見【9 キャリア教育の推進】

- 子どもたちが、小・中・高校という新しい発見や環境にすごく影響を受けやすい若いときに、将来の目標を見つけるチャンスだと思うので、高校でのインターンシップの取組も進めてもらいたい。
- インターンシップは、例えば、プロとして責任感を持った働きを目の当たりにする、時刻はきちんと守る、終わってから礼状を書く、後で報告会をするなどコミュニケーション能力についても副次的な効果が非常に大きい。いい経験だと思う。

【15 徳島県学校改善支援プランの推進「家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合」】

- 読書離れが指摘されている中、家庭読書につながる取組を推進しているところで、数字が下がっているのが気になる。

【40 みなと高等学園の整備】

- 今までのような一斉教育というのでは到底対応できないという子どもたちの状況も出てきている中で、みなと高等学園の平成 24 年度開校に向けて、県民に周知をしていただきたい。

【48 情報教育の推進】

- 100%をめざすのであれば、50 歳前後以上の先生がどの程度前向きに取り組むのか、高齢の教員をどう啓発していくかが大きな問題であると思う。また、全国で 8 位、9 位という優れた情報をもっと発信していただきたいと感じる。一部の学校では研究発表でパワーポイントを使って動画も使用し、非常にここ数年で技術が高まってきたというのを実感している。モデル校以外でもそれを期待する。

【60, 61 安全・安心な学校づくり及び63, 64, 65 防災教育の充実】

- 3. 11後の環境の激変により、それに対応する、命を守り、命の大切さを教える教育がこれから重要になってきたと思う。ハードソフト両面から、緊急の対応が必要と感じる。選択と集中ということで耐震化の数値目標の達成率では一応100%を超えているが、全体で70%台という数字は変わっていないので、これを今後早急に高めていく必要があると感じる。
- 津波で建物が大丈夫であれば3階か屋上まで行けば避難できる。ただし、そこで1日か2日、長くて3日ぐらい外に出られなくなることも想定しておくことが必要である。そのため、飲料水、寒さ対策は一体どうすればいいのかなど、いろいろなことを考えて、基準の見直しをしていくことが必要であると思う。
- 普通の人でも動けない状況下で、小中学校で、特に幼稚園など小さい子どもがいるところやみなと学園等では、安全なところに移動しろといわれても難しい。いろいろなことを想定していろいろなことに気を配って準備をしておくことが必要で、筋交いを入れたから耐震化はこれで大丈夫というのでは無理ではないかと思う。もしも液状化したら、体にハンディのある人や小さい子どもたちが遠くに避難することは無理だと思うので、その建物の中で安全な所に、できるだけ高いところにすぐに逃げられるようなことを想定しておくことも考えていただきたい。
- 私たちも企業の立場でBCPなどに取り組んでいるが、それ以前にどうすれば人が助かるかが重要である。3. 11以前に作った計画のままで防災云々と言っても、必要なことがすべて進んでいるわけではない。(例として耐震化の必要な施設でありながら計画が立てられていない所がある。) いろいろ取り組んではいるが、教育委員会に限らず、行政のあらゆる分野で具体的な指針が示せない状態にあると思う。その辺が問題であり、教育委員会は教育委員会として、生徒の生命を守るために、できるできないは別にしても独自に考えていく必要があるのではないかと思う。
- 3月11日以降いろいろなことを見直している状況の中で、新しく建てているみなと学園が2階建てであるということは、津波に対して怖いと感じる。そのため、避難するときの訓練を最優先していただきたいと強く思う。
- 各学校の実情に応じて、その学校を知り尽くす、地域を知り尽くすということにおいて地域には豊かなボランティア精神に燃えた人がたくさんいるので、ぜひ、避難訓練の時には地域を巻き込んで実施していただきたい。地域の人を巻き込んでの防災訓練の計画を早急に立ててくださいたいということをお願いしたい。

【62 学校安全ボランティア(スクールガード) 活動の充実】

- 安全・安心の中で「スクールガードの見回り活動により不審者情報が減少しており、学校安全ボランティア養成の効果が現れている。」と、非常に楽観的に書いているが、今日の徳島新聞でも不審者情報が掲載されており、毎日のように出ている。統計の件数では下がっているかもわからないが、現状としては危険に充ち満ちているというのが実際と思うので、そういうところで危機感を持った表現も必要であると感じる。

【基本方針6 豊かなスポーツライフと人・地域が輝く「あわ文化」の実現】

- 国民文化祭も決まったので、関連する項目を決める必要も出てくると思う。

【84 生涯スポーツの推進】

- 徳島は公共交通が非常に不便なため、自転車の王国プロジェクト、これは非常に意味があると思う。健康の面からもまた交通の面からも。今後サイクリングロードの整備、やレンタサイクル等で観光面でも活かせ、健康面でも非常に意義が大きいので推進してもらいたいと思う。